

研 究 分 野	増養殖技術	部名	磯根資源部
研 究 課 題 名	ほんだわらが育む豊かな海づくり試験		
予 算 区 分	県単		
試験研究実施年度・研究期間	H18～H19		
担 当	山田 嘉暢		
協 力 ・ 分 担 関 係	西北地方農林水産事務所鱒ヶ沢水産事務所、深浦町役場		

〈目的〉

健康食品として注目され、高い海水浄化機能を持つ食用ホンダワラ「アカモク」について養殖技術を開発し、地場産業の創出と併せて海域の浄化機能を図る。

〈試験研究方法〉

(1) 平成 18 年度種苗

平成 18 年 5 月に深浦町北金ヶ沢地先から採取したアカモク成熟藻体を、ろ過海水をかけ流した水槽中で幼胚を放出させ、6 月 3 日から水槽底面に着生後、葉長が 5～6mm になった幼体を水槽底面から剥離し、30ℓのアルテミア孵化槽でエアレーションしながら、PSEI 培地を用いて葉長約 2～3cm になるまで 3～4 ヶ月間培養し、種苗を得た。種苗は、1～3cm 幅の黒色ネトロンネットにはさみこんだのち、ケーブルタイで長さ 4.5m のロープに結着し、9 月から平成 19 年 3 月まで月ごとに深浦町北金ヶ沢地先と佐井村佐井地先にそれぞれ設置した延縄式養殖施設に毎月ロープ 3 本分を垂下した。平成 19 年 6 月まで毎月、沖出し時期ごとに茎の長さ及び最大葉長を測定した。平成 19 年 6 月 11 日に風合瀬イカ焼き村で、平成 19 年 6 月 12 日には佐井村漁協でふるさと食品研究センター及び下北ブランド研究開発センター職員が、収穫したアカモクからギバサ加工品を試作した。

(2) 平成 19 年度種苗

平成 19 年 5 月には、深浦町北金ヶ沢地先から採取したアカモクを母藻とし、同様に採苗し幅 3～15cm 幅の黒色ネトロンネットに、はさみこんだ葉長約 2～3cm の種苗を、ケーブルタイで長さ 4.5m のロープの 20 本に結着後、深浦町北金ヶ沢地先と佐井村佐井地先にそれぞれ 10 月に垂下し、平成 20 年 3 月まで生長を求めた。

〈主要成果の具体的なデータ〉

(1) 平成 18 年度種苗

平成 18 年 9 月に沖出ししたアカモク種苗の茎長は、深浦町北金ヶ沢の多機能静穏域海藻養殖施設では 11 月に最大 4.2cm、12 月に同 8.0cm であったが、翌年 1 月から急激に増加し 31.0cm になり、2 月に 75.0cm、3 月に 140.0cm となったのち 4 月には 306.0cm になった。さらに、収穫した 6 月には最大茎長が 334.0cm まで達し、最大湿重量が 1765.0g であった。アカモク種苗は 9 月に沖出しした藻体のみ大型に成長し、10 月以降に沖出しした種苗では、最大でも葉長が 15cm、主枝長が 5.8cm にとどまった。

佐井村佐井地先では最大茎長が、11 月に 3.2cm、12 月に 7.5cm であったが、深浦地先と同様に翌年 1 月から急激に増加し 30.0cm になり、3 月に 166.0cm、4 月に 306.0cm になった。収穫時の 6 月には 431.0cm に達し、最大湿重量が 1752.0g であった。9 月、10 月までに沖出しした種苗の茎長が数

メートルに達したが、ここでも深浦地先と同様に10月以降に沖出しした種苗は、最大でも葉長が8.4cm、茎長が19.8cmにとどまった。

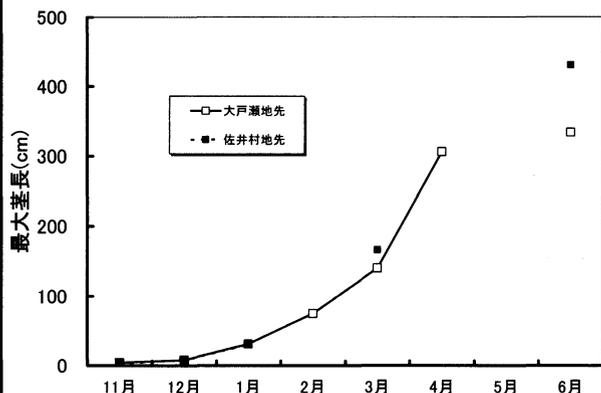


図1 北金ヶ沢地先及び佐井村佐井地先におけるアカモク最大茎長の推移（平成18年度種苗）

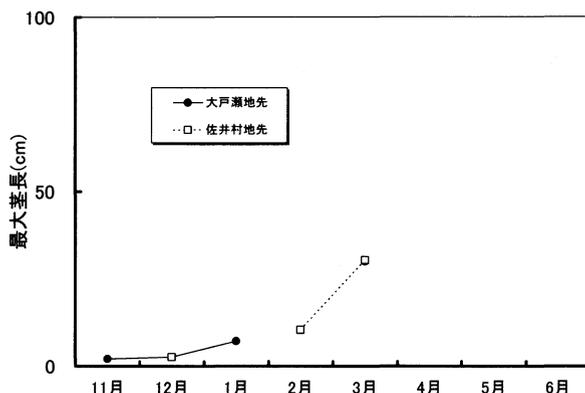


図2 北金ヶ沢地先及び佐井村佐井地先におけるアカモク最大茎長の推移（平成19年度種苗）

(2) 19年度種苗

平成19年10月に沖出ししたアカモク種苗の最大茎長は、深浦町北金ヶ沢の多機能静穏域海藻養殖施設では11月に2.1cm、12月に2.6cm、翌年1月に7.3cm、3月には30.0cmとなった。また、佐井村佐井地先では12月に2.6cmであったが、翌年2月には10.4cm、3月には30.4cmとなった。

〈今後の問題点〉

幼芽の脱落の少ない結着方法及び養殖手法について検討する必要がある。

〈結果の発表・活用状況等〉

深浦町海洋牧場管理運営協議会
水産物供給基盤整備事業年度末報告会